

8-6

主題 ようこそ、ふれあいサロンへ

アクティビティ

副題 特養におけるご利用者の仲間作りへの取り組み

サロン活動

研究期間 15ヶ月

事業所 特別養護老人ホーム 至誠学舎東京 緑寿園

発表者：介護職員 村田 悦子

アドバイザー：秋田 優美（あきた ゆみ）

共同研究者：介護職員 杉澤 康子

電 話 042-462-1188

メール ryoku+r001@ryokuju.gr.jp

FAX 042-462-1648

URL <http://www.ryokuju.gr.jp>今回発表の
事業所や
サービスの
紹介

社会福祉法人至誠学舎東京 緑寿園は、昭和 50 年 11 月に保谷市（現在の西東京市）に開設された入所 100 床、短期入所 6 床の特養です。我が国初の老人デイサービスセンターである「武蔵野・小金井・田無・保谷地域ケアセンター」が併設されていました。法人の理念である「誠の心」を心底に、職員一同更なるサービスの向上に取り組んでおります。

《研究前の状況と課題》

「職員さんと私たちで、たまにはゆっくりお茶でも飲みに行ってみたいね。」

あるご利用者のひと事から、施設での生活には幾つかの課題点があるのではないかと気づいた。第 3 フロアはご利用者 34 名、多少コミュニケーション能力のある方も生活されている。積極的に交流できるこの時期を大切にしたいと考えた。

＜課題＞

- 1) 施設生活では、お付き合いする方の範囲が限定されてしまうのではないかな。
- 2) 職員に対して伝えたい要望があっても、「いつも忙しそうだから」という理由で遠慮されているのではないかな。
- 3) 外出機会が少なくなりがちなご利用者にとって、日常生活を離れて楽しめる機会の提供が必要なのではないかな。

《研究の目標と期待する成果》

これらの課題点への対策として、職員の間で検討を行った結果、平成 21 年 4 月よりサロン活動を開始する事とした。

＜目標＞

- 1) ご利用者同士が交流する機会を提供する事で、サロン活動時だけでなく日常生活においても社会性を維持して頂けるよう支援する。
- 2) ご利用者が職員を交えて、今この時を大切にし、ゆっくりお話できる環境を作り、気兼ねなく思いを伝えて頂く事で、より安心して生活できるサービスの提供につなげる。
- 3) 外出機会が少なくなりがちなご利用者であっても、友人と気軽に茶を飲みに出かけたような雰囲気を楽しんで頂ける機会を提供する。

《具体的な取り組みの内容》

<概要>

月 1 回、60 分間程度で実施。テイルームとは別の小部屋に会場を準備する。クラシック音楽を流し、陶器のカップで紅茶や緑茶をお出しする。お茶やお菓子は普段からご利用者のために購入している物であり、特別な予算はなし。

<参加者・担当者>

参加者は第 3 フロアの女性ご利用者 3～4 名。体調変化などもあり、適宜メンバーの入れ替えをしながら開催している。担当職員は 1 名で進行するが、他の職員も交代で参加し客観的な観点から評価を行う。

<実施内容>

平成 21 年度は特にテーマを定めず、参加者の近況や思い出話などが中心だったが、平成 22 年 4 月より検討を行って「しりとりゲーム」と「回想法カード」を取り入れた。○しりとりゲームは最初に 10 分程度行う事で、和やかに会話しやすい雰囲気を作り出す事ができる。

○回想法カードは、画用紙に「私の故郷」「子供の頃に食べたおやつ」等の 12 のキーワードを記入したもの。引いた内容に沿って 1 人 10 分程度を目安にお話して頂けるよう提案した。

《取り組みの結果と評価》

平成 21 年 4 月からサロンを開始して、5 ヶ月後の 9 月に変化が訪れた。参加者 2 名の間で気持ちにすれ違いが起きた様子であった。担当職員が参加者から個別にお話を伺った結果、交流関係は修復した。

参加者の女性達は今までの人生において、不満や言いたい事があっても我慢してきたのではないかと。思いを自由に表現できるようになった事は、内容はともかくとして良い変化であったと思われる。

また平成 22 年 4 月より回想法を導入した事が、参加者の精神的な安定に効果をもたらしている。社会や家庭で活躍した頃の思い出を語る方は、皆生き生きとした表情を見せる。戦時中に苦勞した話などでも、困難な時代を乗り越えた連帯感を参加者同士で分かち合う事は、現在を生きる活力につながっているのではないかと感じた。

《まとめ》

現在は第 3 フロアの参加者 3～4 名の交流を主な目的として活動しているが、今後は第 1・第 2 フロアからも参加希望者を募り、利用者同士の自発的な交流がフロアを超えて広がっていけば良いと思う。

《提案と発信》

サロン活動は実施にあたってあまり予算がかからない割に、ご利用者にご満足頂ける取り組みではないかと思えます。ご利用者のお話を傾聴することで、職員の意識改善にもつながります。機会があればぜひお試しください。

【メモ欄】追加資料 有 無

注：参加者が自由に記入できるスペースです。空欄のまま提出下さい。